

「FAST TRAVEL」の推進

国土交通省航空局
航空ネットワーク企画課長
大野達

安倍内閣3年間の成果

戦略的なビザ緩和、免税制度の拡充、出入国管理体制の充実、航空ネットワーク拡大など、**大胆な「改革」**を断行。

- ・ **訪日外国人旅行者数**は、**2倍増の約2000万人**に
(2012年) 836万人 ⇒ (2015年) 1974万人
- ・ **訪日外国人旅行消費額**は、**3倍増の約3.5兆円**に
1兆846億円 ⇒ 3兆4771億円

新たな目標への挑戦！

訪日外国人旅行者数

2020年： **4,000万人**
(2015年の約2倍)

2030年： **6,000万人**
(2015年の約3倍)

訪日外国人旅行消費額

2020年： **8兆円**
(2015年の2倍超)

2030年： **15兆円**
(2015年の4倍超)

地方部での外国人延べ宿泊者数

2020年： **7,000万人泊**
(2015年の3倍弱)

2030年： **1億3,000万人泊**
(2015年の5倍超)

外国人リピーター数

2020年： **2,400万人**
(2015年の約2倍)

2030年： **3,600万人**
(2015年の約3倍)

日本人国内旅行消費額

2020年： **21兆円**
(最近5年間の平均から約5%増)

2030年： **22兆円**
(最近5年間の平均から約10%増)

1 Free

ターミナル内の不便の解消 (受入環境の整備)

- ・多言語サービス、無料WIFI、洋式トイレ
- ・ATM、電源充電設備
- ・空港案内、搭乗コールの正確性、明瞭さ
- ・ターミナルの清潔さ
- ・空港スタッフの語学力 など

2 Fast & Seamless

CIQ・保安・搭乗等に係る 手続・導線の効率化

- ・入国審査の待ち時間、職員の態度
- ・保安検査の待ち時間、職員の態度
 - ・チェックイン機などの利便性
 - ・手荷物の迅速な受渡し
 - ・空港アクセスへの導線 など

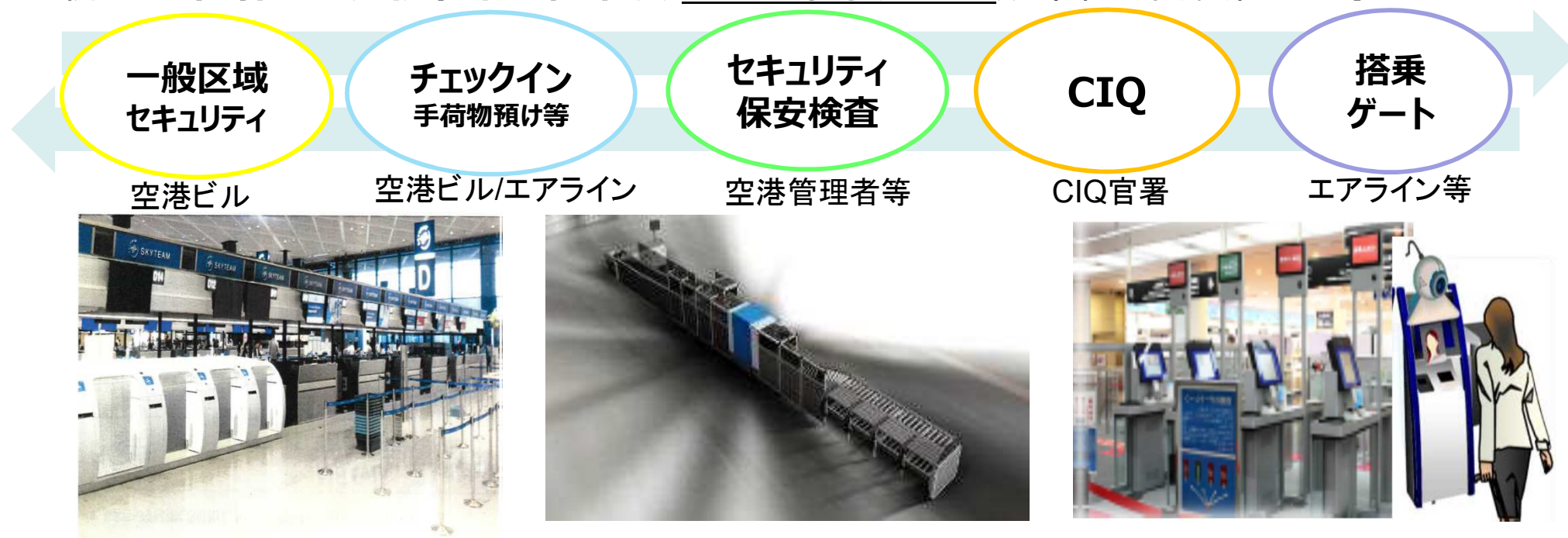
旅客サービスの向上
Customer Satisfaction

3 Fun

おもてなし環境・賑わいの創出

- ・バー、カフェ、レストラン、売店、ホテルなどの充実
- ・TVや娯楽・休憩施設、ラウンジの整備
- ・子供の遊び場・施設の設置
- ・ターミナルデザイン、椅子の多様性、装飾、照明等のバリューアップ
- ・伝統文化の発信、にぎわいイベント、トランジットツアーの開催 など

- 国際線旅客の8割超のシェアを占める三大都市圏空港や、訪日外国人旅客の受入を促進すべき地方空港のモデルとなる空港を中心に、各国際空港における旅客手続の各段階・動線に最先端の技術・システムを導入
- 併せて、関係者の連携体制を構築し、旅客動線横断的に効率化や高度化を追求。



今後の取組

本年1月：FAST TRAVEL推進を図るため、「官民連絡会議」を立上げ
平成29年度内：三大都市圏の空港及び地方空港のモデルとなる空港（仙台・那覇）を中心に関係者WGを設置し、空港別の目標・推進計画の策定に着手

① 到着時から高度なセキュリティ空間

- カメラ情報解析システム導入



複数のカメラ映像を収集・解析する技術でターミナル内を警備

- 爆発物検知装置導入

ゲート通過時に、危険物の所持をセンサーが検知、中央警備室へ自動通報



② 自動でチェックイン・手荷物預入れ

- 自動チェックイン機導入



搭乗者自身が自動でチェックイン手続き

- 自動手荷物預入機導入



搭乗者自身で手荷物を預入等

③ スマートレーン等で円滑な保安検査

- スマートレーン導入



検査準備を複数名同時に行うことが可能となり、待ち時間短縮。

- 検査場のリデザイン
- 中央制御型保安システム等

④ 自動化ゲートで迅速な出入国審査

- 顔認証による自動化ゲート導入



パスポートと顔の照合により本人確認を行い、自動的に出入国手続き

- バイオカードの導入等

⑤ ストレスフリーな搭乗、待合環境

- 顔認証による自動化搭乗ゲート導入

- 待合スペース、バゲージハンドリングシステムの拡張



一般区域
セキュリティ

チェックイン
手荷物預け等

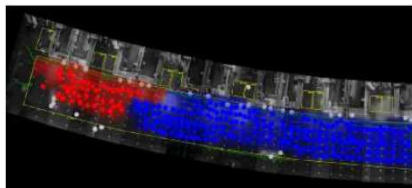
セキュリティ
保安検査

CIQ

搭乗
ゲート

全体：手続き・導線全体のさらなる効率化による利便性向上

- 旅客混雑管理システム(Passenger Flow Management)
空港内の旅客流動の計測システムを導入し、混雑状況や混雑予測の提示等に活用



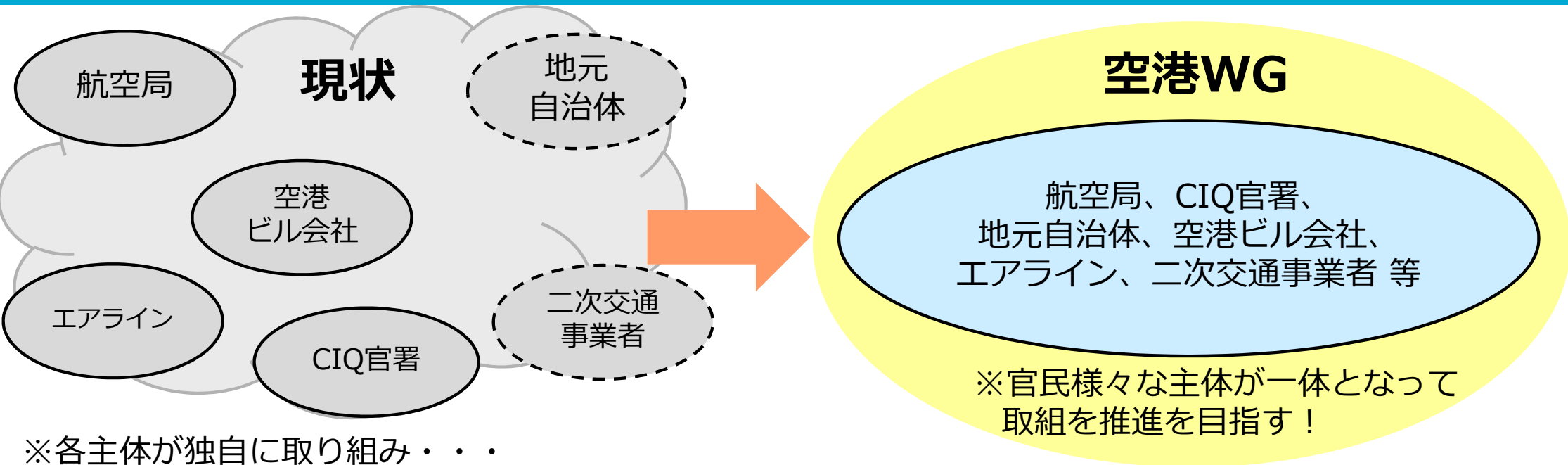
- 顔認証パス(旅券、搭乗券、顔情報等の一元ID化)



チケットの購入・発券から搭乗するまでの全プロセスを顔認証を使って運用

- RFID(ICチップ等が組み込まれた手荷物タグ)の導入等

「FAST TRAVEL」の推進のための連携体制構築について



空港サービスの充実について全ての関係者が連携して解決するための枠組みの構築

空港WGの意義

● 課題共有

- ・ 空港が抱えている課題を官民双方の関係者間で横断的に共通認識
- ・ 各関係者が有するノウハウを最大限活かして、空港の旅客利便性向上に資する取組を検討

● 取組に係る推進

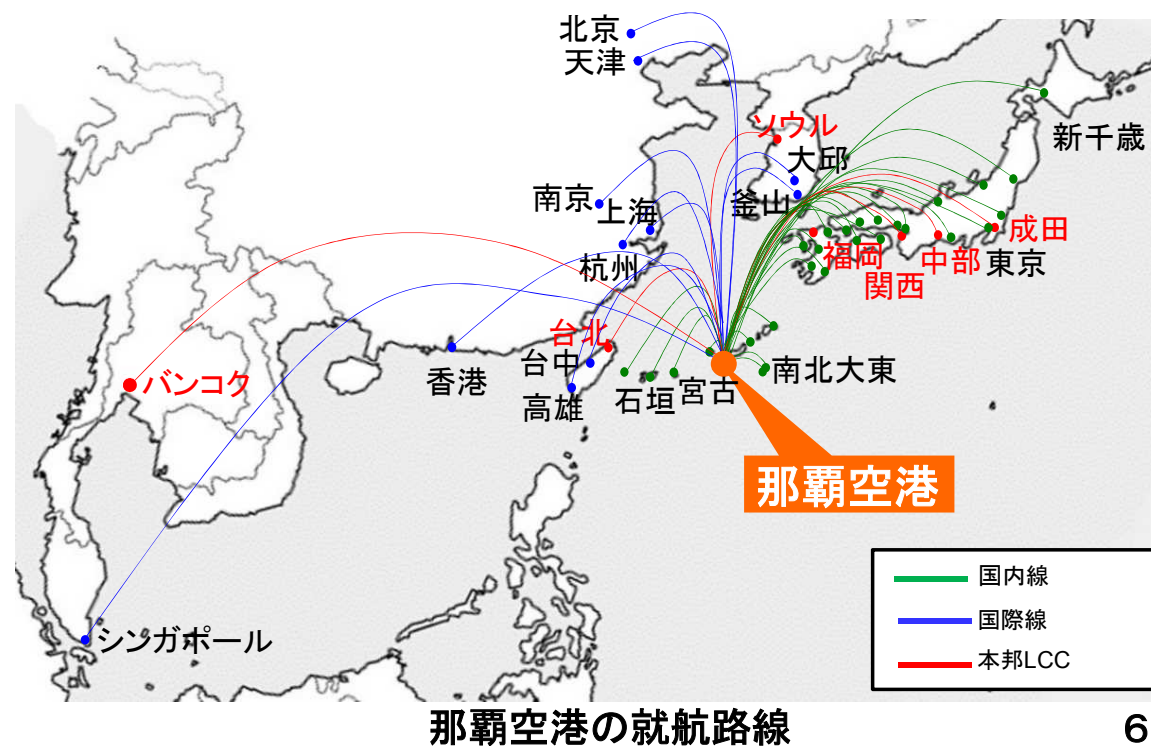
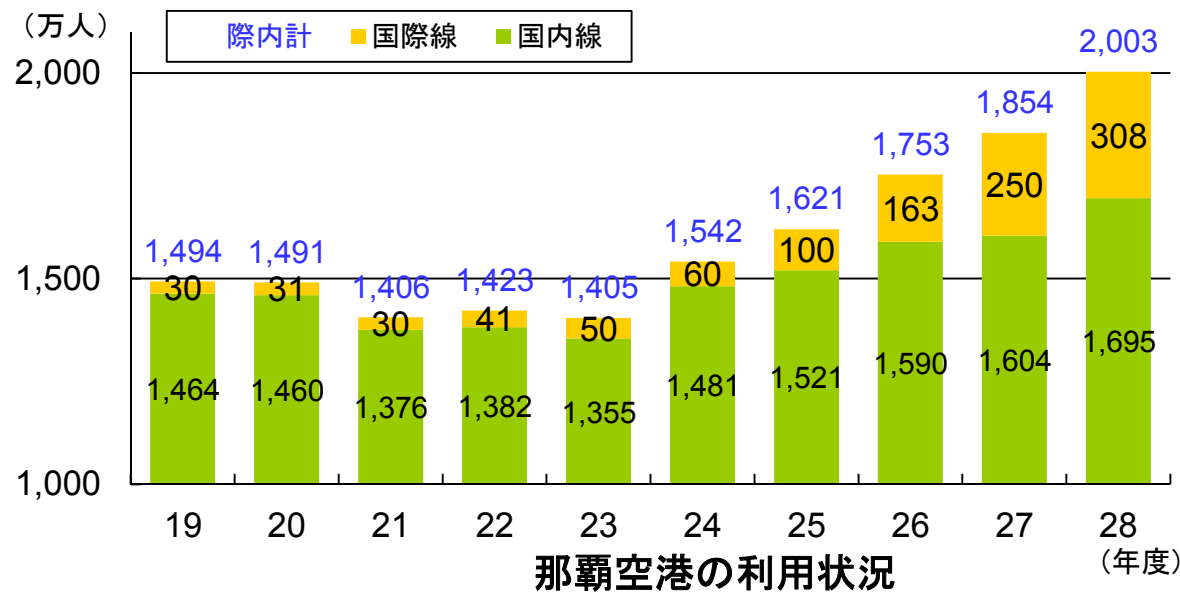
- ・ 個々では対応困難な取組を関係者が協力することにより可能に
- ・ **三大都市圏の空港及び地方空港のモデルとなる空港（仙台・那覇）等において先行的にWGを設置。**
- ・ **課題認識・解決方策を共有化し、FAST TRAVEL推進のための目標・計画策定。**



那覇空港の概要【拠点空港の例】

● 空港概要

- 滑走路 3,000m × 45m
- エプロン 65スポット
 - 大型ジェット16、中型ジェット13、
 - 小型ジェット11、プロペラ機2、
 - 小型機17、ヘリ6
- 運用時間 24H
- 旅客実績 2,003万人 (平成28年度)
 - (国内) 1,695万人
 - (国際) 308万人



那覇空港における取り組み ~ゲートウェイ機能強化の推進

- 将来の需要に適切に対応するとともに、沖縄県の持続的振興発展に寄与するため、那覇空港の沖合に2本目の滑走路を建設中（平成32年3月末供用予定）。
- 今後も増加が見込まれる国際旅客を中心とした航空需要に対応するため、国際線旅客ターミナルビルの拡張（際内連結施設の整備、CIQ施設の拡張）を実施中（際内連結施設は平成31年1月供用予定）。

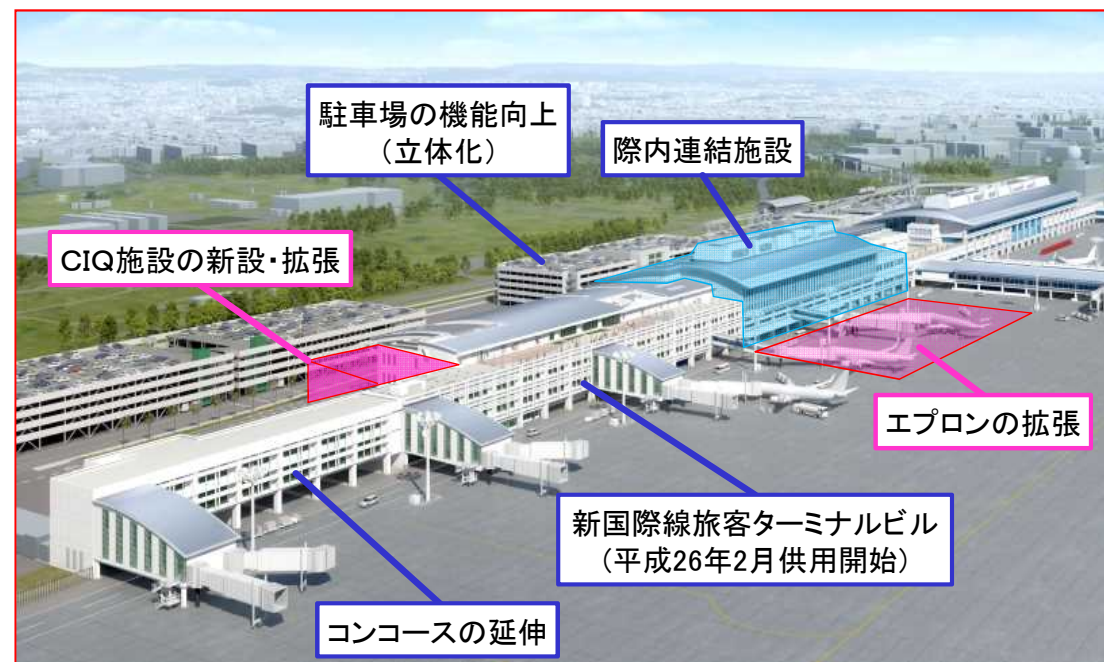
那覇空港滑走路増設事業



● 事業概要

滑走路: 2,700m × 60m
 (現滑走路の沖合1,310m)

国際線ターミナル地域再編事業



● 事業概要

事業内容: 用地造成、エプロン拡張、
 照明施設整備、
 ターミナルビル機能向上 (CIQ施設) 等

那覇空港における「FAST TRAVEL」の課題等

出到着に係る課題

● 出発に係る課題 / チェックイン・保安検査

- ・ 国際線は自動チェックイン機がないため、全ての旅客が有人カウンターで手続きする必要がある。
- ・ 国際線チェックインロビー及び受託手荷物検査場において発生している混雑については、チェックインカウンターの増設により改善を図ることに加え、今後の旅客増に対する手続き時間短縮等のための更なる効率化について、検討する必要がある。
- ・ 国際線保安検査場において発生している混雑については、保安検査場の拡張により改善を図ることに加え、スマートレーン等の導入による手続き時間の短縮等、更なる効率化について検討する必要がある。



チェックイン及び手荷物検査の行列



保安検査場前スペース

● 到着に係る課題 / 入国審査・手荷物受取

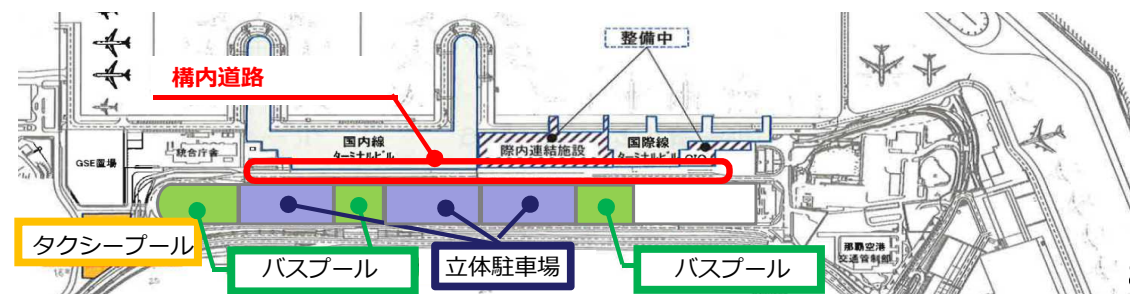
- ・ 到着便が同じ時間帯に複数重なった際、入国審査及び手荷物受取に時間を要する。

構内道路に係る課題

- ・ 旅客数の増加に伴い、駐車場の容量不足や、繁忙期やピーク時間帯にバス、タクシー、レンタカー送迎車一般車等による構内道路の混雑が深刻化するとともに、旅客の待ち時間が増大。



構内道路の混雑状況



仙台空港の概要【地方空港の例】

● 空港概要

- ・ 滑走路 A:1,200m×45m B:3,000m×45m
- ・ エプロン 14バース (大型4、中型4、小型6)
- ・ 旅客搭乗橋 6基 (SPOT2~7)
- ・ 運用時間 7:30~21:30 (14H)

● 沿革

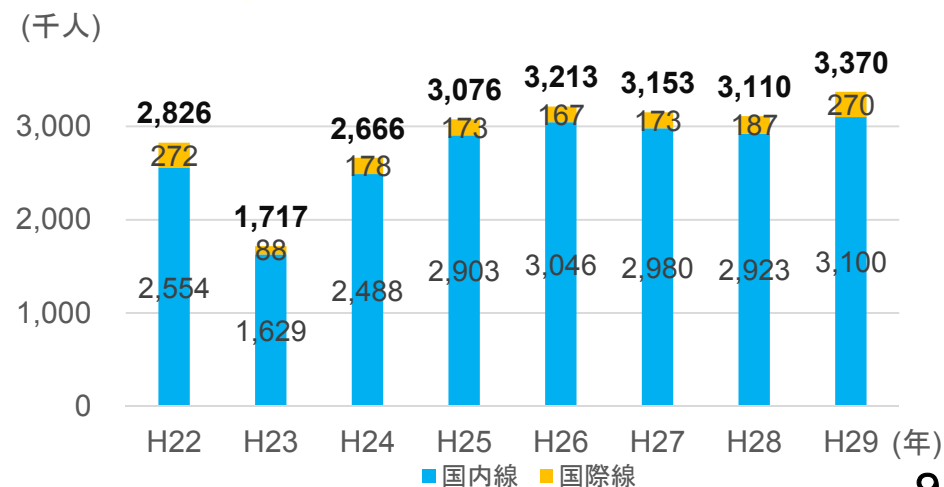
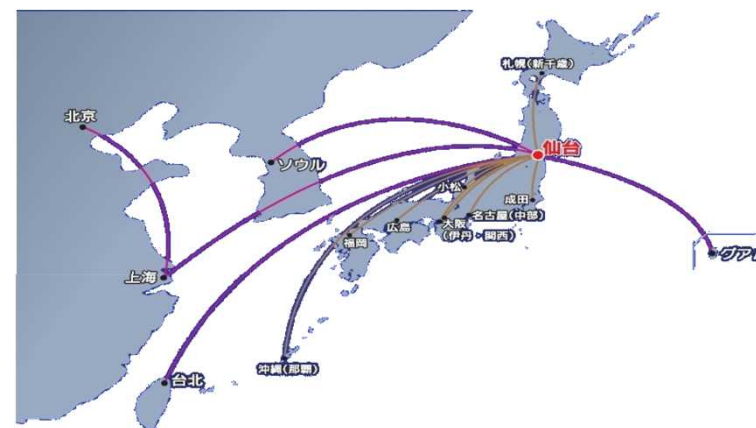
- 平成19年3月 仙台空港アクセス鉄道開業
- 平成23年3月 東日本大震災による壊滅的津波被害
- 平成23年4月 津波被害後、民間航空機運航再開
- 平成23年9月 国際定期便再開、ターミナルビル完全復旧
- 平成24年7月 新管制塔供用開始
- 平成28年7月 仙台空港特定運営事業等開始

● 路線 (平成30年1月時点)

- 国内線：新千歳、成田、中部、小松、関西、伊丹、神戸、広島、福岡、那覇
- 国際線：ソウル、上海、北京(上海経由)、台北、グアム

● 旅客数の推移

- ・ 平成29年は337万人(速報値)を記録し、過去最多人数であった平成11年の335万人を超えた
- ・ 平成23年に震災の影響で一時減少したものの、近年は国際線を中心に回復傾向にある

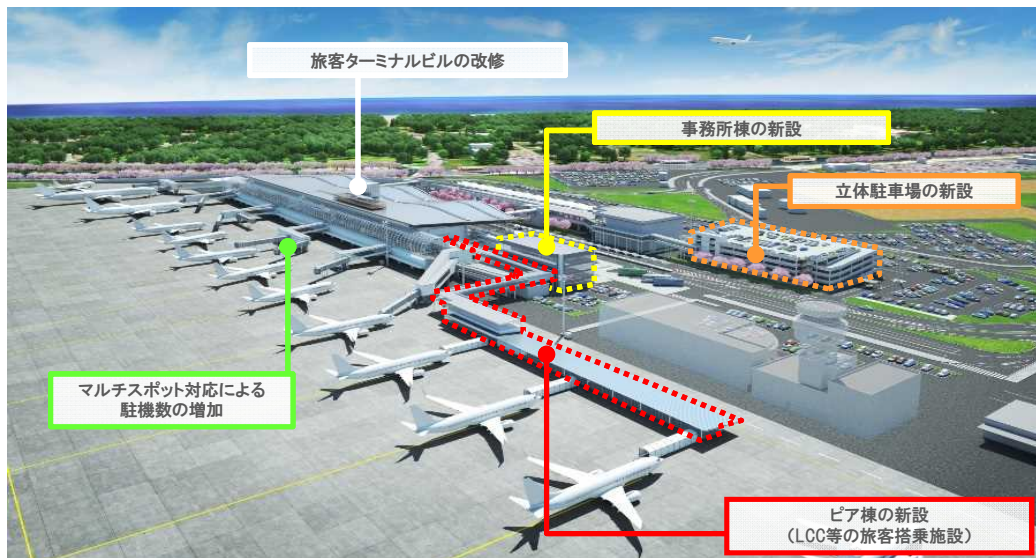


仙台空港における空港運営の民間委託

- ▶ 仙台空港は、国管理空港の運営委託の第1号案件。地元・宮城県は“震災復興の起爆剤”と位置づけ、早くから検討を進めてきた経緯。
- ▶ 平成28年7月1日より、東急・前田建設・豊田通商グループが設立する新会社による運営開始。仙台空港のコンセッションを通じて、東北全体の活性化や震災復興に貢献することが狙い。

仙台空港の将来計画

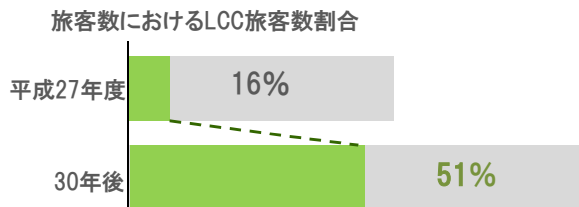
○将来の仙台空港イメージ



出典：東急前田豊通グループ提案概要

○旅客数の目標値

	平成27年度	5年後 (平成32年度)	30年後 (平成57年度)
旅客	311万人	410万人	550万人
国内	295万人	362万人	435万人
国際	16万人	48万人	115万人
貨物	0.6万t	1万t	2.5万t



実現のために必要な対応

旅客数の増加に対する施設機能増強
LCC等が新規に就航しやすい施設の利用料金設定

民間委託を通じた路線拡充の動き

アジアナ航空ソウル線の増便

◇仙台～ソウル便を増便(週4便→毎日) 2016年6月28日～

タイガーエア台湾(国際線LCC)新規就航

◇仙台～台北便を新設 2016年6月29日～
◇仙台空港として初めての国際線LCC

エバー航空台北線の増便

◇仙台～台北便を増便(週2便→週4便) 2016年10月12日～

スカイマーク神戸線の就航

◇仙台～神戸便を再開(1日2往復) 2017年7月1日～

Peach (LCC) 仙台空港拠点化

◇仙台～札幌便を新設(1日2往復) 2017年9月24日～
◇仙台～台北便を新設(1日2往復) 2017年9月25日～

国際線旅客数
前年比 165%
(2016年7月～2017年6月)

空港アクセスの拡充

鉄道	◇仙台空港～仙台(3往復増便) 2017年3月4日～
	◇福島会津若松と直結する高速バス路線開設(1日3往復) 2016年11月14日～ ◇松島・平泉を直結するバス路線開設(松島:1日5往復 / 平泉:1日2往復) 2017年1月25日～
定期運行バス	◇酒田・鶴岡方面を直結する高速バス路線開設(1日2往復) 2017年4月1日～ ◇山形駅を直結するバス路線開設(1日4往復) 2017年4月21日～ ◇秋保温泉・みちのく公園を直結するバス路線開設(1日4往復) 2017年9月20日～
	季節限定

仙台空港の「FAST TRAVEL」に関する主な課題

- 地方空港のターミナルビルに一般的な「奥行き浅い、横幅長い」の長方形形状の建物。
→ 物理的な制約があるなかで「FAST TRAVEL」の推進は多くの工夫が必要！

大型の高性能機器の設置等に制約がある

出発時における課題

際内共通の課題

- チェックインカウンター前のスペース不足
→ 受託手荷物検査レーンの増設、高性能機器の新設等に支障
- 保安検査場のスペース不足
→ スマートレーンの導入等に支障

地方空港国際線の課題

- 出発便に合わせたチェックインカウンターのオープン
→ ・各航空会社のカウンター単位で混雑発生
(隣の航空会社のカウンタースペースは空いている…)
・特定時間帯における混雑の発生

増加するインバウンド需要に適切に対応するためには、
チェックインカウンターの共用化を含む各スペースの有効活用などの対策が必要



手荷物検査の行列①



手荷物検査の行列②



保安検査前の行列

手続所要時間の長時間化

到着における課題

- バゲージクレームの不十分
→ 到着便の混雑時間帯においてベルトコンベア不足が将来顕在化する可能性

その他の課題

- 輸送力のある空港アクセス鉄道の到着時間ごとに旅客が集中
→ 搭乗手続の各段階における混雑発生に影響